

明治前期京都歴史災害データベースプロジェクト

プロジェクト代表者：文学部・教授 山崎 有恒

【研究計画の概要】

申請者は近代京都の歴史災害について、『京都日出新聞』を用いて通時的データベースを作成してきた。しかしながらこの新聞が発行された明治18年以前の歴史災害については、別の新聞雑誌類や史資料を用いて明らかにしなければならないという課題が残っている。そこでこのプロジェクトにおいては、東京の国会図書館や明治文庫、日本各地の大学図書館や公共の図書館が所蔵する明治前期発行の新聞雑誌類を網羅的に収集検討し、データベースに採録する歴史災害を絞り込んでいきたいと考えている。そのため研究費のほとんどは国内調査旅費として使用し、その他消耗品（文具類）、印刷費（複写費）、通信運搬費（調査に際しての研究資材搬送費用）として使用する予定である。訪問予定の図書館やそこで調査すべき新聞雑誌類については、すでにリストアップを終了し、その概要については2015年度第3回の定例研究会で報告済みである。

【研究成果】

I. 研究成果の概要

2015年度は日本各地の史資料館で出張も含めた調査を行い、明治初年の京都の歴史災害に関する様々な情報を収集した。これにより作成を予定しているデータベースの基本情報が集まったが、意外と京都市域に現存する古文書などに災害情報が多く記載されていることもあって、まだその完成には数年を要する状況となっている。

II. 研究成果の詳細

2015年度は日本各地の史資料館での調査を中心に研究を実施した。具体的には以下の各史資料館を訪れた。

国立国会図書館、国立公文書館、東京大学図書館、東京大学明治雑誌新聞文庫、横浜開港資料館、横浜市立中央図書館、愛知県公文書館、愛知県立地図書館、山名新聞歴史資料室、京都府立総合資料館、京都市歴史資料館、香川大学図書館（神原文庫）

その結果、『西京新聞』『京都新報』など明治維新时期から十年代にかけて発行された新聞類についての史料調査を進めることができた。また京都府庁文書などの古文書類より当該期の災害情報について多くの知見を得た（具体的には明治七年の下京大火など）。その成果については、順次データベース化し、最終的には『明治初年京都歴史災害データベース』として、歴史都市防災研究所のHPにアップする予定である。

III. 今後の研究計画・展開

今後も京都市域の明治初年における歴史災害の復原・データベース化を行う。特にこれまでは新聞・雑誌などを中心に災害記事を収集してきたが（そしてそれは今後も継続する必要があるが）、次年度以降については同時進行で京都府、京都市の公文書に加え、個人所蔵の古文書

などについても調査を実施して行く必要がある。そして最終的には総合的に明治初年の京都における歴史災害の状況を明らかにし、データベースとして公開したい。